

キオビエダシャクに注意

特徴・生態

キオビエダシャクの幼虫は、体長5 cm程度でオレンジ色と黒色の模様のシャクトリ虫です。イヌマキ（キャンギー、チャーギ）やナギの葉を好んで摂食し、葉が全部食い尽くすくらい食欲旺盛で、幼虫1頭当たり30～40枚程度食べます。食害の影響により被害木が枯死することもあります。虫体に触れたり震動を与えると吐糸・懸垂する性質があり、5～6 齢を経過した老熟幼虫は懸垂によって降下し、腐食質層中に深さ15 cm程度潜り込んで蛹化します。

成虫は、体長2 cm、羽開長6 cm程度で紺色の羽に帯状のオレンジ色の模様と黒い斑点があります。昼行性で活動は早朝から夕方まで行われ、日差しの柔らかい午前10時頃までと午後4時から日没前までに活発に活動し、イヌマキやナギには、被害を及ぼさないが、主に樹皮の裂け目や枝の付け根の樹皮の粗い部分に1個ずつ産卵し、1雌の産卵は数十個と言われています。その他の樹木や人体への毒性はありません。

発生時期

年間通してみられるが、特に4月～7月に突発的に大発生する傾向がある。



幼虫



成虫



被害木（イヌマキ）

発生したときの防除方法

イヌマキ類を定期的に観察し、幼虫の早期発見及び防除に努めることが大切です。

1. 少数発生の場合:木を揺すり、落下した幼虫を捕殺又は拾い集めて焼却してください。

2. 大発生の場合:トレボン乳剤(4,000倍希釈)

を散布してください。ただし、薬剤散布は幼虫を殺すには効果がありますが、成虫、卵及びサナギには効果がありません。なお、薬剤散布を行う前には、あらかじめ近所の方にも連絡し、また周辺の農作物や通行人等に飛散しないように風が強くない日に散布してください。

※薬剤は、農薬取扱店（農協、園芸専門店、ホームセンター等）で購入してください。